

# 親鸞教學

昇道無窮極	金子大栄 1
浩々洞の人々 —清沢満之と曾我量深—	松原祐善 28
帰命と願生 —『本願の仏地』を読んで—	寺川俊昭 41
有漏の心 —曇鸞の人間理解—	白井元成 52
<hr/>	
浄土教における 非神話化の問題	藤吉慈海 62
<hr/>	
唯識観の契機 —曾我量深先生の 唯識学への感銘—	山田亮賢 76
歴史への発遣	安田理深 82
<hr/>	
歎異のひびき	曾我量深 109

20

大谷大学真宗学会

前に生れん者は後を導き

後に生れん者は前を訪へ

連続無窮にして

願はくは休止せざら使めんと欲す

無辺の生死海を尽さんが為の故なり

(安樂集)

## 編集後記

時の経つのは早いものである。昨年の六月二十日に亡くなられた曾我量深先生の一周年忌を迎える頃となりました。そこで、本号は先生の一周年忌の追悼の意を以て編集致しました。

先ず金子先生の「昇道無窮極」は、富山月愛宛に於ける曾我先生追悼会での講話の筆録である。曾我先生と最も長く先生の歩みを共にされた金子先生は、先生の院号「無極院」に因んで浄土の菩薩の世界を憶念しながら、「先生の一生涯は還相廻向の一生であった」ことを明らかにし、先だつ者と後の者とは真に一つに生き得る一如平等の世界を極めて深い宗教感情を以て教示して下さいました。安田先生の「歴史への発遣」は、相應学舎報恩講に於ける曾我先生追悼の講話である。そこでは現代に於ける曾我教学の持つ意義が深く捉えられ、曾我先生自身は恰も何処まで行っても源泉の絶えることのないような脈脈（本願）を掘り下げる抗夫の如き一生であったことが語られている。松原先生の論稿は曾てNHKで全国放送されたものを、各地からの希望もあってここに掲載させて頂きました。そ

こでは特に清沢先生と曾我先生の深い内面的な結び付きを中心に、両先生が霊的に一人格として常に我々の目前に還相廻向の大活動をなされていることを教えて頂きました。学会外の山田亮賢先生には大変御忙しいところ、曾我先生の唯識学への感銘について貴重な論稿を寄せて頂きました。深く御礼申し上げます。寺川先生の論稿は、昨秋の真宗学会大会に於ける講演を基に纏めて頂いたものです。臼井先生には最近の御研究の中より発表して頂きました。

藤吉慈海先生の「浄土教における非神話化の問題」は、昨年十一月の真宗学会大会に於て講演頂いたものを、本誌掲載のため態々御執筆して頂いたものです。厚く御礼申し上げます。

また曾我先生の「歎異のひびき」は、永年大学院に於て「真宗大綱」の講義題目の下に親鸞教学の精髓を講じられてきたその最終講義、謂わば涅槃講である。尚、金子先生、安田先生の御講話の掲載を御承諾下さいました月愛宛、相應学舎に対しまして厚く御礼申し上げます。また曾我先生の略年譜、著述目録を載せる予定でしたが、既に公にされたものがありますので省略しました。（小野）

昭和47年6月10日 印刷  
昭和47年6月15日 発行

親鸞教学 第20号 300 円

京都市北区小山上総町22

大谷大学真宗学会

親鸞教学編集部

発行人 藤原幸章

大谷大学真宗学研究室 振替 京都 8225番

京都市中京区寺町通三条上ル

文栄堂書店

振替 京都 2948番

京都市下京区七条御所ノ内中町50

中村印刷株式会社

電話 (313) - 0468番

編集  
発行

発売

印刷

親鸞教学

第二十号

昭和四十七年六月十五日 発行

大谷大学真宗学会